

福岡市長賞

「裏表ペイヤー」

福岡教育大学附属福岡中学校 3年

森 早希

「すみません、森です。お弁当を届けに来ました。手が空くまでここで待ちますので、そう父に伝えて下さい。よろしくお願い致します。」母に言われた通りの口上を述べ、椅子に座り父を待つ。

昨日、父に対してぞんざいな態度と言葉使いでカミナリを落とされた。父に原因は無い。なぜか神経が苛立っていた。こんな時、母ならば黙って飲み込むが、父は違う。私が間違えば、きちんとしかられる。そんな出来事があったので、謝罪の意味も含め、自らお弁当の配達をかって出た。

ぼんやりと父を待つ。伝言をお願いした看護師さんは、バタバタと忙しそうに走っている。周りを見渡すと、何人か診察の順番を待っている。ここは福岡市急患診療センター。年二回、父は当番で診療に当たる。今日は夜七時半から十二時まで勤務だ。なんとなく、待合室を見ていると、耳を疑う話が聞こえてくる。

「おい、まだか。早く診てくれ。俺は朝から熱があるんだ。急いでくれ。」

「ねえ、まだ？待つのがいやでここに来ているのよ。これじゃ同じじゃない。早くして。」朝から発熱！昼間何してたの？待ち時間の短縮！それは、ただのわがままでしょ？ちょっと待つ。ここは、急病人の為の施設だ。私は怒りを覚え、目を見開く。そこへ救急車が到着。救急隊員が、重症者ではなくタクシー代りの患者だと、看護師さんに伝えている。もう怒りを乗り越えて、呆れてしまう。「医療のコンビニ化」を目前にして、私は声を失う。

急患センターは、私達の健康を守る為、税金で運営されている。先程の患者さん達が納めた税金のお陰だとしても、あの傍若無人な振舞は、けっして許されるものではない。大切な税金が、本当に必要な人に使われなくなってしまう。きちんと納税することと、正しく利用するという事は、表裏一体の理だ。

もちろん、まだ税金を納めていない私達にも、同じことが言える。教科書や学校の備品を大切に使っているか、通学路を傷つけたり汚したりしていないか、身近なところで常に納められた税金と接している、私達自身の行動をも省みる必要がある。私達若い世代が、モラルある行いを続け、やがて社会人となりきちんと納税する。この単純で簡単な仕組みは、非常識な患者さん達を減らし、医療費の公費負担額を抑えることに繋がってゆくことだろう。こんなことを話すと、大人は夢物語りと笑うかもしれない。しかし、私はこの単純で簡単な仕組みが、明るい社会に変えてゆくと信じて、実行していきたい。

千里の道も一歩からだ。